



和寒町出身 ノルディック複合 加藤 大平 選手 現役引退

競技人生にピリオド

バンクーバーオリンピック(2010年)、ソチオリンピック(2014年)で活躍した和寒町出身の加藤大平選手(33歳)が、4月3日の新聞報道で現役引退を表明しました。

2007年、22歳のときにワールドカップ初出場。2018年まで通算156試合に出場し、2大会連続でオリンピックに出場、09年には世界選手権団体で金メダリストにもなりました。

加藤選手の競技人生は苦難の連続でした。14年ソチ五輪での転倒骨折、翌年秋には右ひざを痛め翌春に手術、そして18年平昌五輪代表から落選。誰よりも辛い日々を過ごしてきました。

しかし、今シーズンも道産子ではただ一人ワールドカップに参戦し、日本チームの代表として世界を舞台に戦ってきました。

4月23日、和寒町役場へ引退報告に訪れた加藤選手

からは「33歳まで選手を続けられたのは、支えてくれたチームや家族、応援してくれたファンの方々や地元の人たちがいてくれたからです。小学4年生のときにジャンプを始め、途中でやめたいと思ったこともありましたが、中学3年生のとき、たった3人の選手のために指導者たちが毎日ジャンプ台を整備してくれて、『中途半端な練習はできない』と思って頑張ってきました。父との約束は『中3まで続ける』ことでしたが、これまで携わってくれた方々への感謝の気持ちで『ここで簡単にはやめられない』と思い、今まで競技を続けてきました。今後は、妻との時間を大切に過ごし、これからの人生を考えていきたいと思えます。」とコメントをいただきました。

長い間、本当にお疲れ様でした。

